

平成26年度「キャリア教育・就労支援等の充実事業」成果報告書

受託団体名	名古屋市教育委員会
-------	-----------

I 概要

1 モデル地域の概要

①モデル地域の種類 ※I型、II型、III型のいずれかに○を付してください。

<input type="radio"/>	I型（連携型：特別支援学校高等部及び高等学校の連携）
<input type="radio"/>	II型（単独型：特別支援学校高等部のみ）
<input type="radio"/>	III型（単独型：高等学校のみ）

※平成26年度については、特別支援学校高等部と高等学校がそれぞれの取組を実施し、今後の連携方法を検討した。

<特別支援学校>

②モデル校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
名古屋市	特別支援学校	知的障害	もりやまようごがっこう 守山養護学校

2 研究課題

- 市立特別支援学校に在籍する就労支援を必要とする生徒の職業教育の充実を図るとともに、守山養護学校産業科をはじめとする特別支援学校高等部の一般就労の充実を図る。
- 特別支援学校高等部の就労支援体制を構築する。

3 研究の概要

守山養護学校産業科に就労支援コーディネーターを配置する。就労支援コーディネーターは、特別支援学校高等部生徒の一般企業での実習や就労先の開拓及び確保、保護者や関係機関の理解を深める啓発活動、一般企業での実習補助、生徒と企業のマッチング、教員が行う企業開拓や就労支援に関する指導・助言などを主に行う。

また、守山養護学校産業科に、職業指導講師を配置する。職業指導講師は、その専門性を生かして質の高い職業指導を担任と連携して行う。あわせて、担任への職業教育の指導を行う。

職業自立推進運営委員会では、名古屋市立特別支援学校高等部生徒の就労支援策及び関係機関との連携強化について協議する。そのために委員として、企業経営者・管理職、福祉施設所員、小・中学校校長代表、特別支援学校校長、就労支援コーディネーターなどが就任する。年に3回の会を持ち、特別支援学校の高等部生徒の一般就労に寄与していく。

4 研究の成果

職場実習や就労先の開拓・確保のため、守山養護学校産業科に就労支援コーディネーターを配置した。就労支援コーディネーターは、それまでの営業職で培った経験、あるいは勤務先で障害者と共に働いた経験等をもとに、幅広く企業や就労移行支援事業所、就労継続支援A型事業所などを回り、職場実習や就労先の開拓・確保に努めた。

その結果、1年間で86社、30事業所を回り、産業科生徒の実習や就労先の開拓・確保等について訪問・打ち合わせを行うことができた。

また、名古屋市立特別支援学校の進路担当の会に出席し、各校の進路指導に対する情報提供を行い、また進路指導担当から質問を随時受けることができるようにするなど、就労支援コーディネーターの活用を図った。

職業指導講師の配置では、6人の講師に年間に2,060時間の授業への配置をすることができた。その結果、ものづくり、福祉、流通・サービスそれぞれの設置コースでの知識や技能を身に付けることができた。

職業自立推進運営委員会は年3回開催した。1回目は、特別支援学校高等部普通科と産業科の進路指導計画についてと名古屋市における障害者就労の現状について、2回目は産業科の生徒の実習作業や教科の学習について視察と、進路指導の進捗状況や追指導について、3回目は進路指導の総括等について協議を行った。

特に、職場定着についての様々なアイデアやアドバイスをいただいた。

5 課題と今後の方策

職場定着のための追指導等、関係機関との連携はどう進めるか、働くために身に付けるべきことは何か等について、職業自立推進運営委員会において研究・協議をしていく。また、働くとはどういうことかを生徒が強く意識することができるようキャリア教育の観点から教育の内容を研究していく必要がある。

就労支援コーディネーターには、実習先や就労先の開拓と確保とともに、企業と就労希望生徒のマッチングについて、今後も力を尽くしてもらおう。

質の高い職業教育のために、専門性を生かした職業指導講師の配置を十分にしていきたい。